

福祉教育ニュース

令和4年3月号 ◆ No.61 ◆ 発行 社会福祉
法人 千葉県社会福祉協議会

◆ 編集 ◆

千葉県ボランティアセンター
〒260-8618
千葉県中央区千葉寺町1208-2
TEL 043(209)8850
FAX 043(312)2886
URL <http://www.chiba-shakyo.jp/vc/>

障害について学ぶ福祉教育プログラムの視点と内容 ～千葉県福祉教育講座を開催しました～

千葉県社会福祉協議会では、例年夏休み期間中に、市内の小学校・中学校・特別支援学校の先生を対象とした「福祉教育講座」を開催しています。今回は、「障害について学ぶ福祉教育プログラムの視点と内容」をテーマに、視覚障害のある当事者の方をガイドヘルプする体験等、体験や交流を中心とした福祉教育プログラムを紹介し、先生方に実際に体験していただく予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響によりオンラインでの開催となりました。実際に当事者の方と交流する体験はできませんでしたが、小中学校等で福祉教育プログラムを実践しているボランティアグループの方を講師にお招きし、障害について学ぶ福祉教育プログラムの視点や具体的な内容についてお話いただきました。内容の一部をご紹介します。

千葉県福祉教育講座 「障害について学ぶ福祉教育プログラムの視点と内容」

【講師】 点字と手話の勉強会「てとてん」代表 永原美弥子 氏

【内容】 ○障害の疑似体験で障害者の気持ちがわかる？

○てとてんの福祉教育のねらい

○体験・交流プログラム紹介

(ガイドヘルプ体験、盲導犬ユーザーとの交流、点字体験、シニアサイン体験、車椅子体験)

障害の疑似体験で障害者の気持ちがわかる？

障害の疑似体験プログラムの中で、代表的な内容の一つに「視覚障害者体験」があります。子どもたちがペアになり、一人がアイマスク等で目隠しをして白杖を持ち、もう一人が手引き（ガイドヘルプ）しながら目的の場所まで連れていくというものです。この体験をした子どもたちに感想を聞くと、多くが「怖かった」「大変だった」「不便だった」と言います。そして「毎日こんな怖い思いをしている障害者はかわいそう」「だから、道で出会ったら助けてあげたい」という「まとめ」になります。

一見すると、体験によって子どもたちが障害を理解し、やさしい気持ちを持ち、今後のことを考えることができたように思えます。実際、子どもたちは純粋に障害のある方の変さに寄り添おうとしてくれていると思います。しかし、「怖い」という感想からもわかるように、この体験では障害のネガティブな部分のみをより強調して体験していることになります。目隠しで急に視界が真っ暗になり、ガイドヘルプを初めてする友達に身をゆだねるのですから当然ですが、せっかくの体験が、一面的な見方や「貧乏な福祉観」を生み出す場になってしまうのはもったいないと思います。

てとてんでは、ガイドヘルプ体験をする場合は、なるべく複数の視覚障害のある当事者の方に参加してもらい、子どもたちがガイドヘルプを行います。実際に視覚障害のある方をガイドするため、実践的でリアリティのある体験になり、障害のある方との交流もできます。障害があっても積極的に外出し、趣味を持ち、生き生きと暮らしている方とぜひふれ合ってほしいと思います。また、子どもたちが視覚障害の状態を体験するのであれば、厚紙などに一つ穴をあけた「厚紙アイマスク」を作り、視野狭窄を体験してはどうでしょうか。全く見えないわけではないので、恐怖感が和らぎ、視覚障害＝全く見えない（全盲）ではなく、色々な見え方があるという正しい知識を伝えることもできます。

てとてんの福祉教育のねらい

福祉教育のねらいは大きく二つあります。一つは「必要な時に当事者が望むサポートができること」、もう一つは「将来、自分や身近な人が障害者になった時に絶望しないこと」です。

必要な時に当事者が望むサポートができるということ、ガイドヘルプや車椅子の介助の仕方を身につければいけない、と思うかもしれませんが、それは必須ではありません。大切なのは、障害のある方がどんな時に困るのかを知ることと、障害のある方と接することに慣れることです。障害によって、日常のどんな場面で困る可能性があるのか、知っていたり、想像できたりすることで、実際にそのような場面で適切なサポートがしやすくなります。また、事前に障害のある方との交流の経験があれば、声かけもスムーズにできるかもしれません。子どもたちが必ずしも介助の技術を身につける必要はなく、本人にサポートの仕方を聞いたり、周囲の大人に助けを求めたりすることで十分力になれるのです。

また、現在、中途視覚障害者になる方は年間1万人、交通事故等で車椅子利用者になる方は年間3千人、難聴予備軍の方が世界に11億人いると言われているそうです。今は障害がなくても、将来、自分や身近な人が障害者になることはあり得ます。その場合、子どもときの疑似体験で障害のネガティブな部分や「恐怖感」のみを味わった子は、絶望してしまうかもしれません。障害があってもできないことと同時に、障害があってもできることを知ることは大切なことです。また、今は便利な機器・道具やアプリなどもたくさんありますので、授業で楽しく学ぶのもよいと思います。

体験・交流プログラム紹介

【ガイドヘルプ】 時間90分～100分目安

内 容	ポイント
1. ゲスト紹介（当事者ゲスト3～7人） ①目の見え方 （視野狭窄、光が感じられる など） ②日常生活（料理・洗濯・掃除）の工夫 ③趣味について	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害＝全盲ではなく、視野狭窄や光がぼんやり感じられるなど、さまざまであることを知る。 ・料理や洗濯などの日常生活の工夫を聞き、障害があってもできること、苦手なことを知る。 ・ピアノ、テニス、ゴルフ、登山、編物、野球観戦等、さまざまな趣味を楽しんでいることを知る。

内 容	ポイント
2. ガイドヘルプの基本（当時者と実演） ①声をかける「何かお手伝いしましょうか」 ②立ち位置 ③歩き方 ④階段・段差の案内 ⑤狭い道の通り方 ⑥椅子への案内 ⑧終わり方「終わりです。さようなら」	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒の代表（または先生）と当事者でデモンストレーションしながら説明する。 ・声のかけ方、終わり方は実際に声を出して練習してみる。 ・当事者に声をかけても「今は大丈夫です」と断られる場合もあることを説明する。（困っていることがない状態なので、本来はよいこと）
3. グループ別体験 ①ガイドヘルプ体験 ②視覚障害○×クイズ（5問程度） 盲導犬クイズ（5問程度） ③便利な設備・道具・アプリ	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒を3つのグループに分け、①②③の体験をそれぞれ12分前後でローテーション。 ・それぞれの体験には当事者がつき、問題を出したり解説したり、実際に児童・生徒にガイドヘルプしてもらったりする。
4. まとめ、事後学習	

【シニアサイン】 時間45分～90分目安

シニアサインとは、聴覚に障害のある方や耳の遠い高齢者とコミュニケーションを取る方法の一つです。口を大きく開けてはっきりと話しながら、ジェスチャー等を交えて伝えます。手話はお互いに手話ができないと通じませんが、シニアサインでは、実物を見せたり、指差ししたり、ジェスチャーを交えたり、その場に合った臨機応変な方法で、創意工夫しながら伝えることが可能です。

内 容	ポイント
1. 聞こえなくて困る場面 ①コミュニケーションが取れない ②交通機関が止まった時、災害が起きた時の避難指示など、必要な情報が得にくい	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚からの情報がないことで困る場面を想像してみる。
2. 耳の遠い高齢者とどうやって話す？ ①手話…お互いに手話ができないと通じない ②耳元で大きな声で話す…かえって通じない ③筆談…空中に書く、指でてのひらに書く	<ul style="list-style-type: none"> ・耳の遠い人にとって、耳元で大きな声は出されるととてもうるさく聞こえ、かえって聞き取りにくい。怒られているように感じる。 ・目の前でゆっくり、はっきりと話す。口の動きを見せることも大切なので、大きな口で話すことを意識する。
3. 耳の聞こえにくい人と話すコツ ①目の前で話す ②大きな口で話す ③ヒントをつけて話す（実物を見せる、指差し、ジェスチャー）…シニアサイン	
4. シニアサイン（ジェスチャー）練習 ①簡単な単語、文章を伝えてみる ②災害時の避難所の場面を想定して情報を伝えてみる	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に簡単な文章をジェスチャーを交えて伝えてみる。 ・同じ言葉でもいろいろな表現の方法があることを知る。
5. まとめ、事後学習	

【車椅子体験】 時間90分～100分目安

内 容	ポイント
1. ゲスト紹介（当事者ゲスト2人） ①日常生活（料理・洗濯・掃除）の工夫 ②趣味について	・ゲスト紹介のポイントは、ガイドヘルプ体験と同様。
2. 車椅子操作実演・操作方法説明 ①当事者による車椅子（自走）の実演 ②車椅子（介助）の操作方法、注意事項	・介助する時は、介助される人に方法などを確認する。また、必ず声をかけてから車椅子を動かす。
3. 車椅子体験 ①自走 ②部分介助・全介助	・自走による操作、介助による操作（介助する側、介助される側）をそれぞれ体験する。 ・待ち時間で、気づいたことをメモしておく。
4. まとめ、事後学習	

まとめ・事後学習

いずれの体験でも、体験だけで終わるのではなく、当事者と交流してほしいと思います。時間があれば、インタビュー等、子どもたちからの質疑応答の時間を多く設けることもできます。

また、事後学習もとても大切です。子どもたちに感想を聞いたり書いてもらったりする際は、①驚いたこと、すごいなあと思ったこと、②今後、自分でもできそうなことをテーマにするとよいと思います。体験の前に思っていたことが違って驚き、「目からウロコ」の気づきを大切にしていきたいと思います。子ども同士で感想を発表したり、話し合ったりして、お互いの考えを共有したり、同じ考え方、違う考え方があることに気づいたりするのもよいのではないのでしょうか。

体験は、色々なことに気づくきっかけの一つですが、それが全てではありません。障害のある人もない人も一人一人違うことに気づき、相手の立場で想像してみる経験を重ねることが大切だと思います。

おわりに

福祉教育では、実際に障害のある当事者の方と交流し、体験することを重視していますが、現在は新型コロナウイルス感染症の影響で、学校でそのような場を設定していただくのが難しい状況だと思います。本やインターネットで障害について正しく学ぶことも大切ですので、ぜひ福祉教育を積極的に取り入れていただければと思います。今後感染症予防対策をしながら、できることから子どもたちの福祉の学びのお手伝いできればと思っています。

福祉教育プログラムについては、千葉市社会福祉協議会各区ボランティアセンターで
ご相談・お手伝いしますので、お気軽にお問合せください。

◆千葉市社会福祉協議会「福祉教育支援事業」のご案内◆

本会では、学校での福祉教育・ボランティア学習を推進するため、福祉教育支援事業を実施しています。計画の参考にいただければ幸いです。

現在、新型コロナウイルス感染症予防対策を行ったうえで貸し出しや事業を実施しています。ご協力くださいますようお願いいたします。

なお、本会職員、派遣講師はマスクを着用し、検温等健康チェックを各自行ったうえで訪問します。

- ◆三密を避け、換気が行える会場で実施する
- ◆原則、接触を伴う体験活動、対面でのグループワーク等のプログラムは実施しない
- ◆体験用具は使用の都度消毒を行い、複数の参加者間の使いまわしは極力避ける
- ◆会場に手指消毒液を設置する

★「ふれあいトーク」

「ふれあいトーク」は、視覚障害のある方が学校に出向き、「日常生活のこと」や「児童・生徒に考えてもらいたいこと」などについてお話しするプログラムです。実施を希望される場合は、学校所在区のボランティアセンターまでご連絡ください。

聴覚障害については「千葉市聴覚障害者協会」において講師派遣を行っています（有料）。こちらも、学校所在区のボランティアセンターまでご相談ください。



※ふれあいトーク講師の送迎については、本会で行います。

※お申し込みの際には、開催希望日の1か月前（講師によっては2か月前）を目安として、候補日を複数お伝えください。

※講師の都合によっては、ご期待に沿えない場合もございます。あらかじめ、ご了承ください。

★「出張ボランティア・福祉体験講座」

ボランティアセンターの職員が学校に出向き、ボランティアに関するお話や、高齢者疑似体験・車椅子体験の指導を行っています。

プログラムのご相談やお問い合わせは、学校所在区のボランティアセンターへお願いします。



★「福祉体験用具の貸出し」

市及び各区ボランティアセンターでは、福祉教育・ボランティア学習を支援するため、さまざまな福祉体験用具の貸出しを行っています。ご利用いただくには、予約が必要です。

各ボランティアセンターまでお問い合わせください。

◆体験用具の一例◆

<高齢者疑似体験セット（シニアポーズ・エルダートライ）>

〔シニアポーズ〕

※取扱：花見川区・稲毛区・若葉区・美浜区・市VC

〔エルダートライ〕

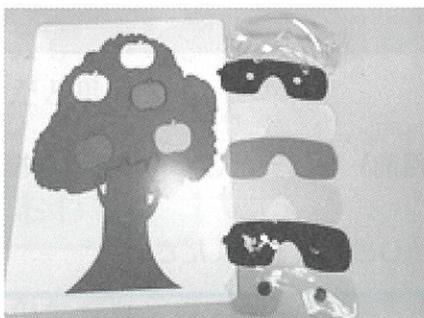
※取扱：緑区



加齢に伴う自然な身体変化や、脳卒中などの病気の後遺症、けがなどの障害によって生じる身体機能の低下・日常生活の不自由さを体験できるセットです。

高齢者に対する接し方や生活環境、バリアフリーなどについて考えさせる体験学習などに活用いただけます。

<視覚障害体験ボードセット>※取扱：市VC



グラス（めがね）と、樹木を描いた紙製のマグネットボード・リンゴの形をした5色のマグネットのセットです。

樹木のボードにリンゴの形をした5色の紙製のマグネットを貼り、グラスに6種類のシートを装着することで、白内障や視野狭窄などの状態、視覚障害における色の識別についての疑似体験ができるようになっています。

視覚障害についての学習に活用いただけます。

<視覚障害体験プレートセット>※取扱：花見川区・稲毛区・若葉区・緑区・美浜区

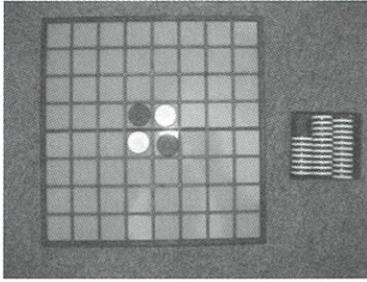


グラス（めがね）と、裏側にマグネットの付いた12枚の紙製プレート（非常口標示板など）のセットです。

グラスに3種類のシートを装着することにより、白内障や視野狭窄などの状態、視覚障害における色の識別についての疑似体験ができるようになっています。

視覚障害についての学習に活用いただけます。

<マグネットオセロ> ※取扱：中央区以外



石にはマグネットが入っていて、盤のマス目の仕切りが凸状になっているため、置いた石がずれません。
また、石の白い面は平面、黒い面には渦巻き状の凹凸が付いているので、石の表裏が、触れることでわかるようになっています。
視覚障害についての学習に活用いただけます。

<鈴入りサッカーボール（ブラインドサッカーボール）> ※取扱：中央区以外

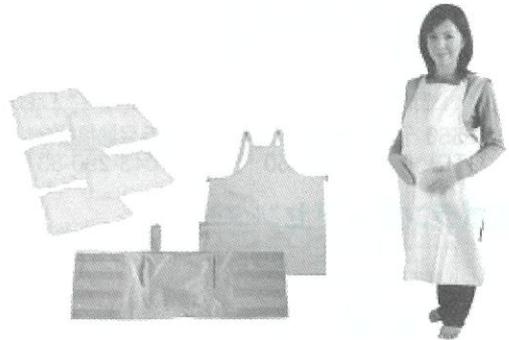


ボールの中に鈴が入っている、ブラインドサッカー（視覚に障害のある方がプレーできるように考案されたサッカー）用のボールです。
転がると鈴が鳴って、ボールの位置を音で確認できるようになっています。
ブラインドサッカー体験をはじめとした、視覚障害についての学習に活用いただけます。

<妊婦疑似体教材> ※取扱：花見川区・若葉区・美浜区・市VC

妊娠時期の身体の変化などを体験することができるセットです。

砂袋を1kg単位で装着することができる仕組みと なっていますので、妊娠中期から妊娠後期にかけて、妊娠時期の身体の変化を体験することが可能です。



★福祉体験用具の数量一覧表

(令和4年3月1日現在)

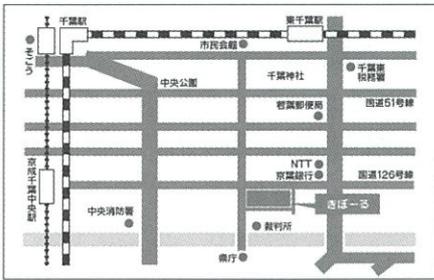
	中央区	花見川区	稲毛区	若葉区	緑区	美浜区	市VC
高齢者疑似体験セット							
〔シニアポーズ〕		12	12	12		12	12
〔エルダートライ〕					11		
車椅子〔自走式〕	4	11	10	10	11	10	15
白杖〔折りたたみ式〕		50	50	50	40	60	40
〔直杖〕							35
点字器〔通常サイズ〕		60	60	60	60	60	100
〔小型サイズ〕							50
点字マニュアル		60	60	60	60	60	100
視覚障害体験プレートセット		5	5	5	5	5	
視覚障害体験ボードセット							5
マグネットオセロ		7	7	7	7	7	6
点字トランプ		7	7	7	7	7	7
音声電卓		4	7	7	4	7	6
鈴入りサッカーボール		7	7	7	7	7	7
体験用点字ブロックセット			1				1
妊婦疑似体験教材		1		2		2	2

※中央区ボランティアセンターは、車椅子のみの貸出しです。また、駐車場は有料となっておりますのでご注意ください。

福祉教育・ボランティア学習の相談窓口

★区ボランティアセンターは、千葉市社会福祉協議会区事務所が運営しています。

中央区ボランティアセンター



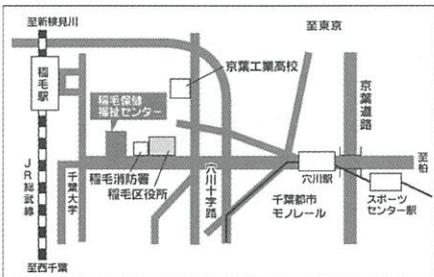
〒260-8511 千葉市中央区中央4-5-1 (Qiball〔ぎぼーる〕15階)
TEL 043-221-2177 FAX 043-221-6077

花見川区ボランティアセンター



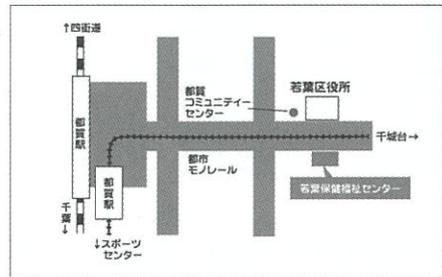
〒262-8510 千葉市花見川区瑞穂1-1 (花見川保健福祉センター3階)
TEL 043-275-6438 FAX 043-299-1274

稲毛区ボランティアセンター



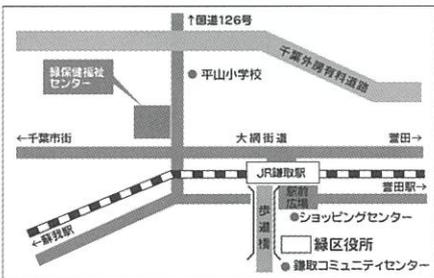
〒263-8550 千葉市稲毛区穴川4-12-4 (稲毛保健福祉センター3階)
TEL 043-284-6160 FAX 043-290-8318

若葉区ボランティアセンター



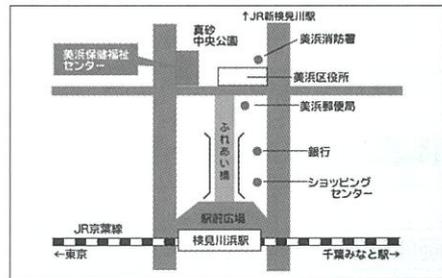
〒264-8550 千葉市若葉区貝塚2-19-1 (若葉保健福祉センター3階)
TEL 043-233-8181 FAX 043-233-8171

緑区ボランティアセンター



〒266-8550 千葉市緑区鎌取町226-1 (緑保健福祉センター2階)
TEL 043-292-8185 FAX 043-293-8284

美浜区ボランティアセンター



〒261-8581 千葉市美浜区真砂5-15-2 (美浜保健福祉センター2階)
TEL 043-278-3252 FAX 043-278-5775

OPEN 月曜日～金曜日 8:30～17:30 第2日曜日 9:00～17:00
(いずれも祝日、日曜祝日の翌月曜日、年末年始を除く)

千葉市ボランティアセンター

〒260-8618 千葉市中央区千葉寺町1208-2
千葉市ハーモニープラザB棟3階
TEL 043-209-8850 FAX 043-312-2886

OPEN 火曜日～土曜日 8:30～17:30
(祝日、月曜祝日の翌火曜日、年末年始を除く)

※各区ボランティアセンターとは開館日が異なりますのでご注意ください。

